

1. 本堂組物の修理状況

本堂の組物の状況は比較的良好であったが、一部に部材の欠損や虫害が認められた。破損の程度に合わせ、矧ぎ木や合成樹脂による補修を施した。



2. 本堂化粧隅木の継木修理状況

本堂隅木の化粧部分は、四隅とも寛文期と推測される修理時に切断され、取り替えられている。

さらに正面側の二本は、幕末期に先端部分が継木修理を受けていたが、姑息な納まりであったため、今回改めて新材で継ぎ直した。

継手には十分な強度を得られるよう留意して施工したが、継木部分の先端にかかる荷重や、中古部分の耐力も考慮し、金属プレートによる補強を見え隠れ部分に施す予定である。



3. 本堂背面の崩土 鋤き取りの状況

本堂北側斜面は、軒支柱の際まで崩土が堆積し、雨落ち溝も確認できない状態であった。

岩盤が覗いていた高さ3m程度まで土砂の鋤き取りを行ったところ、ほぼ全面で岩盤が露出した。

岩盤を削りぬいて設けられた雨落ち溝から北側のおよそ1mは平坦に造り出されており、本堂建立時の造成の様子が見られる。

